

# HP Operations Orchestration

ソフトウェアバージョン: CP16 (9.x)

Windows および Linux オペレーティングシステム

## リリースノート

ドキュメントリリース日: 2014 年 11 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 11 月





## ご注意

## 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

## 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

## 著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## 商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## 謝辞

# ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

# サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

# 目次

ご注意 .....	3
保証 .....	3
権利の制限 .....	3
著作権について .....	3
商標について .....	3
謝辞 .....	3
ドキュメントの更新情報 .....	4
サポート .....	5
概要 .....	8
新機能 .....	9
サポートされているバージョン .....	9
機能拡張 .....	9
OO Content Pack 16 のドキュメント .....	10
OO Content Pack 16 のインストール .....	11
HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード .....	12
手動での OO Content Pack 16 のインストール .....	13
ローカル Central Server への OO Content Pack 16 のインストール .....	14
Windows .....	14
Linux .....	16
リモート Central Server への OO Content Pack 16 のインストール .....	17
Windows .....	17
Linux .....	18
OO Content Pack 16 のアンインストール .....	19
コンテンツパックフォルダーのバックアップ .....	19
インストールのロールバック .....	19
既知の問題 .....	20
一般的な制限 .....	23
サードパーティの制限 (Windows) .....	23

修正された不具合 ..... 24

## 概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Pack 16 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

これは英語版と日本語版のリリースです。

HP OO Content Pack 16 は累積的なコンテンツパックであり、リポジトリとRAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。



## 新機能

### サポートされているバージョン

次の統合バージョンのサポートが追加されました。

- Powershell バージョン 4.0
- HP Network Automation 統合バージョン 10.00
- HP Network Node Manager ( i ) 統合バージョン 10.00
- HP Fortify 統合バージョン 4.1
- HP Load Runner バージョン 12.01
- Microsoft Exchange 2013
- OpenStack 統合バージョン Juno 2014.2
- OpenStack 統合バージョン Helion Public Cloud 13.5
- OpenStack 統合バージョン Helion Openstack 1.0
- HP Operations Orchestration 10.20

### 機能拡張

#### Amazon 統合

Amazon AWS API が、次のように最新バージョンに更新されました。

- 「EC2」および「VPC」オペレーションは、06/15/2014 API バージョンを使用します。
- 「負荷分散」オペレーションは、06/01/2012 API バージョンを使用します。

#### Exchange 2013

- 既存のフローおよびオペレーションが、Exchange 2013 をサポートするように機能拡張されました。
- **2013** (Exchange 2013 を表す) が、フローおよびオペレーションの version 入力の有効な値として認識されるようになりました。
- フォルダー「**Exchange 2010**」の名前が、「**Exchange 2010 および 2013**」に変更されました。

- オペレーション「**Exchange 2010 コマンドレットの実行**」の名前が「**Exchange 2010 および 2013 コマンドレットの実行**」に変更されました。
- フロー「**OWA 接続のテスト**」および「**システムヘルスのテスト**」は Exchange 2013 をサポートしていません。そのため、新しい 2 つのフロー（「/ライブラリ/オペレーション/Exchange/Exchange 2010 および 2013/Exchange のテスト」の下の「**ヘルスレポートの取得**」および「**サーバーヘルスの取得**」）が作成されました。

Exchange 2013 の診断情報を取得するには、Exchange 2013 だけで動作するこれらのフローを使用してください。

## OO Content Pack 16 のドキュメント

OO Content Pack 16 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- Amazon Elastic Compute Cloud Integration Guide
- Amazon Elastic Load Balancing Integration Guide
- Amazon Identity and Access Management Integration Guide
- Amazon Security Token Service Integration Guide
- Amazon Virtual Private Cloud Integration Guide
- OpenStack Integration Guide
- HP Fortify Integration Guide
- HP Operations Orchestration Integration Support Matrix
- HP Operations Orchestration Operations and Flows
- NA Integration Guide
- NNMi Integration Guide

## OO Content Pack 16 のインストール

OO Content Pack 16 は、既存の OO プラットフォームバージョン 9.01.01 またはそれ以降にインストールすることを推奨します。

OO Content Pack 16 は、既存の Content Pack 14 コンテンツインストール上にインストールできます。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
OO Content Pack 16	9.00.01
OO Content Pack 16	9.05.0001
OO Content Pack 16	9.07
OO Content Pack 16	9.07.0005
OO Content Pack 16	9.07.0006
OO Content Pack 16	9.07.0007
OO Content Pack 16	9.07.0008
OO Content Pack 16	9.07.0009

コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインします。

既存の OO 9.00 バージョンの上から OO Content Pack 16 をインストールした後で、OO 9.00 を再インストールした場合は、OO Content Pack 16 も再インストールする必要があります。

## HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード

HP Live Network にある Operations Orchestration コミュニティページでは、サポートされるリリースの OO と関連ドキュメントを検索してダウンロードできます。

注: コミュニティページを利用するには、HP Passport に登録してサインインする必要があります。

HP Passport ID に登録するには:

次のサイトにアクセスします: <http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または

HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

OO のリリースとドキュメントをダウンロードするには:

1. HPLN サイト: <https://hpln.hp.com/> にアクセスします。HP Live Network の 1 ページ目が開きます。
2. ページ下部の [2] をクリックして、2 ページ目に移動します。
3. **[Operations Orchestration]** の下の **[Content]** をクリックします。



### Operations Orchestration

[Announcements](#) | [Forum](#) | [Content](#)

Optimize operational cost and  
Improve service quality by  
enabling end-to-end IT  
Process Automation

4. **[Content Catalog]** タブを選択します。

5. [Contents] のリストから [HP OO 9.x Content] を選択します。

注: 列の上部にある [Search] および [Filter] ボタンを使用すると、表示されるコンテンツパッケージを少なくすることができます。

6. 大きい [Download] ボタンをクリックします。  
ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。
7. [Download] をクリックしてすべてのファイルをダウンロードするか、またはダウンロードしたい jar および PDF ファイルを選択してから [Download] をクリックします。

## 手動での OO Content Pack 16 のインストール

OO Content Pack 16 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。OO に付属する Java JRE (<OO ホーム>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

OO Content Pack 16 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- [ローカル Central Server にインストールする](#)
- [リモート Central Server にインストールする](#)

# ローカル Central Server への OO Content Pack 16 のインストール

## Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(12ページ) の手順に従って、OO Content Pack 16 のインストーラー `OO_Content_Pack_16_Installer.jar` をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]** メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]** ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **[OK]** をクリックします。

5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。

コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

6. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

### 注:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 16 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
  - a. **[スタート]** メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]** の順に選択します。
  - b. **[コマンド プロンプト]** を右クリックし、**[管理者として実行]** オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの `admin` 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 5 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの `https://localhost:8443` 以外のポートで OO Content Pack 16 をインストールする

場合は、上記手順のステップ 5 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても OO Content Pack 16 をインストールする場合は、上記手順のステップ 5 のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -locale ja
```

## Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各 サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(12ページ) の手順に従って、OO Content Pack 16 のインストーラー **OO\_Content\_Pack\_16\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. ターミナルを開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード>  
-home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

### 注:

- Central のユーザー名にデフォルトの **admin** 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の  
Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先  
フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralUsername sysadmin -  
centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 16 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の  
URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -  
locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL https://central_  
server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても OO Content Pack 16 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-forceinstall** パラメーターを使用して次のように入力します。



```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -forceInstall -  
centralPassword<Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale  
ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -forceInstall -centralPassword  
mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

## リモート Central Server への OO Content Pack 16 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

### Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. [「HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード」\(12ページ\)](#) の手順に従って、OO Content Pack 16 のインストーラー **OO\_Content\_Pack\_16\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]** メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]** ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **[OK]** をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -  
centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

6. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 16 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
  - a. **[スタート]** メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]** の順に選択します。
  - b. **[コマンド プロンプト]** を右クリックし、**[管理者として実行]** オプションを選択します。

## Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(12ページ) の手順に従って、OO Content Pack 16 のインストーラー **OO\_Content\_Pack\_16\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **ターミナル**を開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_16_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -  
centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -  
locale ja
```

5. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

## OO Content Pack 16 のアンインストール

OO には、インストールしたコンテンツパックをアンインストールするオプションが用意されていません。これは設計上の制限であり、Operations Orchestration バージョン 10 では解決されています。

インストールしたコンテンツパックをロールバックする唯一の方法は、コンテンツパックをインストールする前にバックアップを作成しておき、そのバックアップから OO のフォルダー構造を復元することです。

### コンテンツパックフォルダーのバックアップ

復元ポイントとして使用するバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. <OO\_INSTALLATION\_DIR>\Central\rcrepo フォルダーをバックアップします。
2. <OO\_INSTALLATION\_DIR>\RAS\JavaDefault\repository フォルダーをバックアップします。
3. RSCentral および RSJRAS サービスを停止します。

### インストールのロールバック

コンテンツパックをインストールした後で、インストールをロールバックする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. コンテンツパックのインストール後に変更または作成したフロー (存在する場合) をリポジトリにエクスポートします。リポジトリのインポートの詳細については、『HP OO Studio オーサリングガイド』の「リポジトリのインポート」を参照してください。
2. **Central** および **RAS** サービスを停止します。
3. 「[コンテンツパックフォルダーのバックアップ](#)」(19ページ)のステップで作成したバックアップ場所からファイルを復元します。
4. サービスを再起動します。
5. 上記のステップで作成したリポジトリをインポートします。

**注:** リポジトリをインポートした後で、復元したフローのうち、アンインストールしたコンテンツパックのオペレーションを使用して作成されたものが無効と表示されることがあります。これは、コンテンツパックが初期設定の OO オペレーションを更新して、新しい入力やレスポンスを追加しているためです。ステップ 3 で Central リポジトリを復元するときに、これらの入力は失われます。

## 既知の問題

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C5316	HTTP クライアントが接続を再利用しないため、パフォーマンスボトルネックが発生する	<p>各 OO RAS オペレーションは、次の点を考慮して1つのユニットとして設計されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行時にすべてのリソースが取得される</li> <li>• オペレーションの完了時に、取得されたリソースは解放される</li> </ul> <p>ただし、何千ものステップに対してフローが同じオペレーションを順次使用する場合、RAS オペレーションは、各ステップで必要なリソースを再利用せずに再作成します。</p>
QCCR1D131214	「割り当て先の更新」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Network Node Manager/9.0/インシデント」の下の「割り当て先の更新」オペレーションは、「モデルを調査できません」例外エラーで失敗します。本来は、オペレーションは success を返し、 <b>assignTo</b> の値は入力値として指定された値に変更されるはずですが。
QCCR1D135408	「割り算」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションは、0による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。
QCCR1D135409	「割り算」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションを使用して、0.0を0.0で割ると、オペレーションは「BigInteger の 0 除算」メッセージを出して失敗します。
QCCR1D138282	「システムアカウントの設定」および「システムプロパティの設定」オペレーション	新しいシステムアカウントを作成してチェックインした場合に、システムアカウントのユーザー名とパスワードの値が空であると、どのフローでもこれらの値を使用できません。このため、「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration」の下の「システムアカウントの設定」を使用することで、OO フローを実行してシステムアカウント値をリアルタイムで作成することはできません。「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration」の下の「システムプロパティの設定」オペレーションにも同じ動作が見られます。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D138299	「Base64 デコーダー」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション」の下の「Base64 デコーダー」オペレーションは、characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS で、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずですが。
QCCR8C14857	OO でフローをスケジュールするオペレーションで説明フィールドが設定されない	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジューリング」の下の「フローのスケジュールオペレーション」を使用して説明を持つフローをスケジュールした後、「フロースケジュールの取得」を実行してデータを取得し、「スケジュール詳細情報の取得」を使用すると、説明が空白です。
QCCR8C16166	「オペレーティングシステム検出」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される	「オペレーティングシステム検出」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されず。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「文字列の比較」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。
QCCR1D145676	「フローのスケジュール」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジューリング」の下の「フローのスケジュール」オペレーションは、ローカルリポジトリから OO 9.03 に対して実行した場合は失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
QCCR1D149698	「テンプレートの再デプロイ」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/」の下の「テンプレートの再デプロイ」オペレーションは、ターゲットパスが無効であると、NullPointerException を生成して失敗します。
QCCR1D150316	「アプリケーションバージョンの取得」および「アプリケーションの取得」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」オペレーションの下の「アプリケーションバージョンの取得」オペレーションは、applicationId 入力为空のままだと NullPointerException を生成して失敗します。  「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」の下の「アプリケーションの取得」オペレーションは、filterBy に byApplicationId を割り当てて、value に不具合説明の値を割り当てると、NullPointerException を生成して失敗します。
QCCR1D150709	「テストの読み取り」フロー	「ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/テスト計画」の下の「テストの読み取り」フローは、useLabels が true に設定されている場合と false に設定されている場合とで異なる結果を返します。
QCCR1D154222	「Ant スクリプト」フロー	「/オペレーション/Ant/Ant スクリプト」の下の「Ant スクリプト」フローの timeout 入力の値は、結果を返す際に考慮されません。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D155726	「トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーションは、 <b>deploymentName</b> および <b>deploymentSetId</b> 入力に無効な値が指定された場合でも成功しますが、デプロイメントは CDA 側で <code>NullPointerException</code> により失敗します。
QCCR1D155731	「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーションは、 <b>realizedTopologyId</b> 入力に無効な値が指定された場合でも、失敗せずに、結果を返さずに成功します。
QCCR1D155796	「コネクタのリスト」フロー	「/統合/Hewlett-Packard/ArcSight/サンプル」の下の「コネクタのリスト」サンプルフローは、シナリオがネガティブな場合にエラーメッセージを返しません。
QCCR1D156392	Windows のエラーメッセージ	「/オペレーション/ファイルシステム/Windows のみ」フォルダーの下のオペレーションと、「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows」の下の「ping」および「経路探索」オペレーションは、ユーザー名またはパスワード入力が無効な場合に、Windows 2012 と Windows 2008 R2 で異なるエラーメッセージを表示します。
QCCR1D157920	「ホストからのデータストアの削除」オペレーション	「/統合/VMware/VMware 仮想 インフラストラクチャーおよび vSphere/ホスト/ストレージ」オペレーションの下の「ホストからのデータストアの削除」オペレーションは、 <b>dataStore</b> に無効な値を指定して実行した場合に、vSphere 5.1 より前とは異なるメッセージを返します。
QCCR8C26159	http クライアントを使用するフローの <b>trustAllRoots</b> 入力の説明を更新する必要がある	HTTP クライアント v1 を使用する OOTB フローの説明では、 <b>trustAllRoots</b> のデフォルトは False になっています。http クライアント v1 オペレーションのデフォルト入力はすべて True になったため、この記述は正しくありません。
QCCR8C26449	「Exchange のテスト」フォルダーのフローが、予期したとおりに動作しないことがある	Microsoft Exchange 2013 のリリースバージョン (RTM、SP1、累積的な更新プログラム 6 など) によっては、オペレーションおよびフローのターゲットホストである Exchange 2013 サーバーにインストールされている役割が 1 つだけ (クライアントアクセスまたはメールボックスのどちらか 1 つ) の場合に、一部の API 要素 (Exchange Powershell コマンドレットなど) が予期したとおりに動作しないか、失敗することがあります。  オペレーションおよびフローのターゲットホストである Exchange 2013 サーバーに両方の役割 (クライアントアクセスとメールボックス) がインストールされている場合、この問題は発生しません。

## 一般的な制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25082	「ローカルグループの作成」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない	「ローカルグループの作成」オペレーションは、英数字以外の文字を使用した場合でも正常に完了します。ただし、オペレーションで例外が発生し、アカウントは作成されません。

## サードパーティの制限 (Windows)

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24692	日本語環境で「Windows イベントをログに記録」オペレーションが失敗する	下記の問題のために、「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/イベントログ」の下の「 <b>Windows イベントをログに記録</b> 」オペレーションが日本語環境で失敗します。 <ul style="list-style-type: none"><li>severity フィールドは、英語の値のみを受け入れます。</li><li>オペレーションの設計上、Language という名前の入力はありません。</li></ul>
QCCR8C24653	「サービスの開始モードの変更」オペレーションは、startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下の「 <b>サービスの開始モードの変更</b> 」オペレーションは、startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗します。オペレーションは英語文字を使用すれば正しく動作します。
QCCR8C24662	「サービスの資格情報の変更」オペレーションは、serviceuser 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下の「 <b>サービスの資格情報の変更</b> 」オペレーションは、serviceuser 入力に日本語文字を使用した場合でも正しく動作するようになりました。

## 修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、ALM 不具合 (QCCR) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C21646	8 台以上のディスクを追加しようとする、「 <b>新しいディスクを VM に追加</b> 」オペレーションが正しく動作しない	次のオペレーションが、8 台以上のディスクを持つ仮想サーバーにアタッチしようとしたときに正しく実行されるようになりました。 <ul style="list-style-type: none"><li>「/ライブラリ/統合 /VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/」の下の「<b>新しいディスクを VM に追加</b>」</li><li>「/ライブラリ/統合 /VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/」の下の「<b>既存のディスクを VM に追加</b>」</li></ul>
QCCR8C22983	OO 9.x CP13 を日本語環境にインストールすると、警告メッセージが表示される	OO 9.x CP13 を日本語環境にインストールしても、警告メッセージは表示されなくなりました。
QCCR8C24834	パスワードに &、<、> のいずれかの文字が含まれている場合に VMWare オペレーションが接続できない	パスワードに次のいずれかの文字が含まれている場合でも、VMware オペレーションが正しく実行されるようになりました。 ! @ # \$ % ^ & * ( ) < > ?



CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25054	「Solaris」フォルダーのオペレーションが米国の日付形式だけを使用する	「/ライブラリ/オペレーション/オペレーティングシステム/<オペレーティングシステム>/OS およびサーバーオペレーション/」の下の「 <b>負荷平均の取得</b> 」および「 <b>稼働時間</b> 」フロー、および「/ライブラリ/オペレーション/オペレーティングシステム/<オペレーティングシステム>/非推奨/ディスクおよびファイルのオペレーション/」の下の「 <b>最終更新日時</b> 」フォルダーが、ローカライズ環境で動作するようになりました。  「/ライブラリ/オペレーション/オペレーティングシステム/<オペレーティングシステム>/非推奨/ディスクおよびファイルのオペレーション/」の下の「 <b>前回のログ時刻とメッセージの取得</b> 」フローがリモートマシンのログ形式に依存するため、ローカライズ環境で動作するときは一定の制限があります。
QCCR8C25190	HTTP クライアントベースのすべてのオペレーションへの <b>socketTimeout</b> の追加	<b>socketTimeout</b> 入力が、HTTP クライアントベースのすべてのオペレーションに追加されました。
QCCR8C25215	「リモートコマンド実行」の結果が約 976,000 バイトに切り詰められる	「/ライブラリ/オペレーション/」の下の「 <b>リモートコマンド実行</b> 」オペレーションが出力を正しく扱うようになり、出力を切り詰めたり、新しい余分な行を追加したりすることがなくなりました。
QCCR8C25251	オペレーション（「Windows ゲストのカスタマイズ」）で、ターゲット IP スタック情報とコンピューター名をカスタマイズしようとする、vSphere 5.5 クライアント接続サービスが再起動される	<b>ownerName</b> 、 <b>ownerOrganization</b> 、 <b>computerName</b> 、 <b>timezone</b> が必須としてマークされたため、「/ライブラリ/統合 /VMWare/VMware 仮想インフラストラクチャー および vSphere/ゲスト」の下の「 <b>Windows ゲストのカスタマイズ</b> 」オペレーションが成功するようになりました。
QCCR8C25551	Windows の「リモートコマンド実行」が失敗し、フローの実行が中断される	検出された Null 値がチェックされるようになり、それによってフローの失敗が処理されるようになりました。
QCCR8C25948	OMi の「イベントの更新」オペレーションを使用するときに、そのまましておくべき入力を削除すると、NullPointerException エラーでオペレーションが失敗する	「/ライブラリ/統合 /Hewlett-Packard/Operations Manager i/」の下の「 <b>イベントの更新</b> 」オペレーションが正常に実行されるようになりました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25949	Amazon/IAM 統合の「ユーザーの作成」オペレーションが、プロキシなしで動作しない	次のオペレーションが正しく実行されるようになりました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーの作成</li> <li>ユーザーの取得</li> <li>ユーザーの削除</li> </ul>
QCCR8C25996	[Amazon]「サブネットの作成」が subnetId 結果を返さない	「/ライブラリ/統合/Amazon/VPC/サブネット」の下「サブネットの作成」オペレーションの subnetId、cidrBlock、vpclId の各結果が正しく設定されるようになりました。  「/ライブラリ/統合/Amazon/EC2/Elastic Block Store/スナップショット」の下「スナップショットの作成」オペレーションの snapshotId 結果が正しく設定されるようになりました。
QCCR8C26000	[openstack]「OpenStack REST Put」フローに、(フローを動作させるために必要な) ContentType ヘッダーがない	「OpenStack REST PUT」にヘッダー contentType が追加されました。
QCCR8C26008	「HTTP クライアント」の trustAllRoots のデフォルト値が true である	「Http クライアント」のフローおよびオペレーションの説明が更新され、trustAllRoots のデフォルト値が true であることが反映されました。
QCCR8C26034	「ログイン資格情報」を使用するように設定されている AD ユーザーと資格情報でログインすると、「フローの動的起動」オペレーションが失敗する	ログインした Active Directory ユーザーに対して、「/ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/<バージョン>」の下「フローの動的起動」オペレーションが正しく実行されるようになりました。
QCCR8C26043	[Amazon] Amazon EC2 統合の下「スナップショットの作成」オペレーションで NullPointerException が発生する	「/統合/Amazon/EC2/Elastic Block Store/」の下「スナップショットの作成」オペレーションが正しく実行されるようになりました。
QCCR8C26045	OMW の「インシデントの作成」オペレーションが、「インシデントの作成を検証できない」で失敗する	エラーのトラブルシューティングに役立つように、エラーメッセージが更新されました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C26067	「XML 文書の検査」オペレーションを XML 名前空間をサポートするように変更変更	「/ライブラリ/ユーティリティオペレーション/XML 処理/」の下の「XML 文書の検査」オペレーションに、名前空間のサポートが追加されました。
QCCR8C26071	「HTTP PUT」オペレーションが Content-Length ヘッダーがないために失敗する	「/ライブラリ/オペレーション/HTTP クライアント/」の下の「HTTP クライアントの PUT」オペレーションにヘッダー <code>contentLength</code> が追加されました。
QCCR8C26422	[Exchange]「トランスポートサーバーの情報の取得」オペレーションがスクリプトレットエラーで失敗する	「/ライブラリ/オペレーション/Exchange/」の下のオペレーション「トランスポートサーバーの情報の取得」が正しく実行されるようになりました。

